

2010年7月12日

JARIP会員各位

日本保険・年金リスク学会  
研究会担当理事  
栗山・福田・清水・伊藤・河野

## JARIP 2010年度第2回研究会のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、日本保険・年金リスク学会（JARIP）では会員の研鑽のため、重要なテーマについてより深く研究討議を行う研究会を実施しております。2010年度第2回研究会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。

今回は、茶野 努氏（武蔵大学経済学部教授）より、「ビッグバンが生損保市場に与えた影響」のテーマでご講演をいただきます。

90年代半ば以降の金融ビッグバンによる保険分野での規制緩和以降の生損保市場の競争度、効率性を計測してビッグバンの効果を検証されました。検証にあたっては、市場の集中度（ハーフィンダール・ハーシュマン指数）、市場の競争度（H統計量）、効率性の評価（DEAの効率性値を使ったマルムクイスト指数）をそれぞれ測定しながら以下のような経済学的な判定結果を導いておられます。すなわち、損保市場はビッグバン前の非競争的で効率性が損なわれていた状態から、価格カルテル撤廃によって競争が活発になり効率性が改善し、この点でビッグバンの効果を積極的に評価できる。一方、生保の場合、損保ほどには競争度、効率性が改善しておらず、ビッグバンの効果を評価しづらい。

このような両業態の相違点の原因の究明、さらなる競争促進を図るうえで何が求められているかを考察する、当学会のメンバーにとってまたとない機会となります。

ご講演の後の質疑応答や意見交換を通じてさらに理解を深めていきたいと考えております。会員各位の積極的なご参加をお願い申し上げます。

敬具

記

### 1. 第2回研究会

日時：2010年8月10日（火曜日） 14時から16時30分

場所：朝日生命大手町オフィス1階大会議室

（地下鉄大手町駅またはJR東京駅下車、徒歩5分）

（別紙 周辺地図をご参照下さい）

講師：茶野 努（ちやの つとむ）氏（武蔵大学経済学部教授）

（講師略歴をご参照ください）

講演題目：「ビッグバンが生損保市場に与えた影響」

## 研究会講演要旨：ビッグバンは保険市場を競争的・効率的にしたか

九〇年代半ば以降、ビッグバンによって保険分野での規制緩和も進んだ。保険市場の競争が促進され、保険業の効率性は向上したのか、その効果を検証した。戦後の保険規制の特徴は、銀行同様に護送船団方式による市場競争よりも業界の安定を重視するものであった。損保では料団法により価格カルテルが認められていた。しかし、九五年の保険業法改正で、規制緩和による競争促進・市場効率化（生損保の相互参入、商品・料率の規制緩和等）が打ち出された。さらに、日米保険協議の合意を受け、九八年に料団法が改正された。

戦後は「二〇社体制」と呼ばれる国内会社専有の時代が続いたが、七〇年代半ば以降外資を中心に緩やかな新規参入が相次ぎ、保険業法時の生損保相互参入時に会社数が急増した。ビッグバン後は、合併・買収により企業数が大幅に減少に転じた。ハーフィンダール・ハーシュマン指数をみると、損保では総資産・経常収益ともに大幅に上昇、生保に比べ急激に市場の集中化が進んでいる。市場構造・行動・成果仮説によれば、損保では競争状態が悪化する一方、生保は競争状態が変わらないか、緩やかながら好転していることになる。

そこで、市場競争度の指標である H 統計量を計測した。この値が 0 より小さければ独占、1 であれば完全競争、0 と 1 の間であればチェンバレンの独占的競争を意味する。ビッグバン前後の二期間に分けた推計の結果、生保の値は 0.430 と 0.434 でチェンバレン均衡の状態にあり、かつ競争度に変化が見られなかった。一方、損保の場合 0.112 と 0.777 でチェンバレン均衡にあるものの、ビッグバン後は競争度が高まっており、より完全競争の状態に近づきつつあるという対照的な結果が得られた。

競争度の変化が効率性の改善に結びついたのかをみるため、DEA を使ったマルムクイスト指数を計測した。同指数は、各企業の効率性の上昇を示す「キャッチアップ効果」と、二時点間の効率的フロンティアの変化を表す「フロンティア・シフト効果」に分解できる。計測結果によると、損保の場合、ビッグバン前には効率性の低下が見られたが、ビッグバン後では効率性が大幅に上昇している。これに対して、生保の場合、両期間とも効率性は上昇しているものの、フロンティア・シフト効果を見ればむしろ低下している。この両業態の違いは、損保では合併・買収の対象となった保険会社が効率性の改善に大きな影響が及ぼしていて、経営改善に向けた前向きな合併・買収である一方、生保では経営破綻会社等の外資による救済合併・買収が多く、効率性の改善に結びついていないことによる。

以上、損保市場はビッグバン前の非競争的で効率性が損なわれていた状態から、価格カルテル撤廃によって競争が活発になり効率性が改善した。この点でビッグバンの効果を積極的に評価できる。一方、生保の場合、損保ほどには競争度、効率性が改善しておらず、ビッグバンの効果を評価しづらい。一層の競争促進を図るうえでは、チェンバレン均衡の特徴である製品差別化が問題となる。保険会社に対する消費者の情報劣位（情報の非対称性）によって、製品差別化戦略を通じた価格競争の緩和を行いやすいからである。

## 2. 参加申し込み

参加希望者のお名前・所属組織名・Eメールアドレス・電話番号に加え、

「8月10日（茶野先生）の第2回研究会への参加申込」と明記の上、Eメールにて

To : [office@jarip.org](mailto:office@jarip.org)

(日本保険・年金リスク学会事務局)

Cc : [kuriyama\\_akira@mail.asahi-life.co.jp](mailto:kuriyama_akira@mail.asahi-life.co.jp)

(同 研究会担当：栗山晃)

迄お申込ください。

参加申込は8月2日(月曜日)迄とさせていただきます。

### 3. 参加費

研究会の参加費は無料ですが、資料代などの実費をカバーするため、会場にて1,000円程度のカンパをお願いしております。趣旨ご高配の上、ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。またカンパの趣旨から領収書の発行は行っておりません、ご了承いただきたくお願い申し上げます。

以 上

講師略歴：

茶野 努 (ちやの つとむ) 氏 (武蔵大学経済学部教授)

〈学歴〉

1987年 大阪大学経済学部卒業

1999年 大阪大学大学院国際公共政策科博士課程修了

1999年 博士 (国際公共政策／大阪大学)

〈職歴〉

1987年 住友生命保険相互会社入社

1990年 (株)住友生命総合研究所出向

1999年 九州大学経済学部客員助教授 (任期2年)

2008年 住友生命保険相互会社退職

〈著書〉

『国際競争時代の日本の生命保険業』東洋経済新報社1997年。

『予定利率引下げ問題と生保業の将来』東洋経済新報社2002年。

# 朝日生命大手町ビル周辺地図

## 【朝日生命本社へのアクセス】

〒100-8103 千代田区大手町2-6-1  
朝日生命大手町ビル

**アクセス** : JR東京駅八重洲北口改札を出て左に曲がり直進し、日本橋口より2分。または地下鉄大手町駅B6番出口より1分。

